

第3回紙・パルプ（家庭紙分野）の物流における生産性向上
及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会
議事概要

1. 日時

令和元年6月25日（火）15時00分～16時45分

2. 場所

中央合同庁舎第3号館8階 国際会議室

3. 議事概要

（1） 議題1「今年度の懇談会（紙・パルプ）の進め方について」、議題2「紙・パルプ物流（家庭紙）の現状・課題解決の方向性等について」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。

（2） 各委員からは、以下のような発言があった。

- 家庭紙の諸課題は、小売店、消費者まで調査を実施して実態を把握することが重要ではないか。
- トイレットペーパーの倍巻商品等（既存のロール径を変えずにロール長を延長した製品。例えば、一般的な製品を1ロール30mとすると、2ロール分の60mのロール長の延長を持つ等。以下、「コンパクト製品」という。）は、省資源化、物流の効率化にも貢献できることを消費者が理解することが重要。消費者が環境問題や物流の効率化の実情をきちんと理解すれば、消費者ニーズが高まり、小売店の取扱いも増加するのではないか。
- メーカーがコンパクト製品の価格を下げる方向性を十分に詰めていかないと普及拡大は難しい。コンパクト製品の増加は物流費削減につながり効率的となる一方で、設備投資も必要となる。コンパクト製品の普及は今後進めていくべきだが、この点をどのようにクリアしていくかを検討していく必要がある。
- コンパクト製品を推進する場合には、例えばグリーン購入法に含めるなど、環境問題に関連した施策と連携しながら進めることも重要。
- コンパクト製品を市場に浸透させるためには、消費者から理解を得るための踏み込んだ取組が必要。しかし、消費者の価値尺度に影響を与え、購買行動を変化させることは容易ではない。

- パレットを使用する分だけ積載効率は下がってしまうが、トラックドライバーをはじめ物流に携わる人たちの負担を軽減させるとともに物流の効率化を進めるうえで、パレット化に取り組むことは時代の趨勢であると考えている。そのため、最大限積載効率を維持しつつ、運用コストを安価に抑えることを目的として家庭紙専用のメーカー統一パレットを開発し、一部メーカーでは既に導入を進めている。将来的には、家庭紙専用パレットに積載する段ボールケースや、個々の商品の荷姿を再設計することも求められている。ただ、パレット化を進める場合、パレタイザーの導入設備投資がハードルとなっているという現状がある。
- トイレットペーパーのパレット7段ケース積みは最上段が2mを超すため、卸売業の物流現場でより安全に段崩し作業をできるよう、作業員への配慮が必要ではないか。
- 卸売業の物流問題解決に向けた取組として、①コンパクト製品の推進、②単価のアップ、③取扱ロット数の拡大（規模メリット）、④納品条件の改善（納品回数の減少、納品指定時間の緩和）、⑤共同配送、に取り組んでいる。改善に向けて、運送事業者のみならず、納品先、仕入先、さらに同業者との踏み込んだサプライチェーン全体の連携が特に重要となっている。
- 課題解決のためにコストアップが必要になる場合もあると思うが、それは最終的に製品単価で何とかしなければならないのではないかと。メーカーのコストアップにどう折り合うかを考える必要があるのではないかと。また、消費者をどうやって味方につけるかも考えていかなければいけないのではないかと。
- 予約受付システムを導入する際は、ただ導入するのではなく、商品特性、商品回転数、配送先数など様々な特性を踏まえ、倉庫運用の実態、その他の問題・課題を抽出しながら、予約受付システムをいかにカスタマイズし、運用そのものの整理、見直しすることが重要。
- 納品先環境の改善について、特に商店街での効率的な物流の実現に向けては、地元商店街の理解がどこまで得られるかが重要。商店街が強く賛同すれば、警察当局も貨物専用車の荷扱場所を駐車規制の見直しで確保するなど可能となり、商店街物流の効率化を図るには、住民意見、商店街の意見の集約をいかに図るかがポイント。

以上
(文責：事務局)